

ゆい  
**結通信**


**NO. 49**

2021年7月15日

**だれもが生き生き暮らせるまちに  
牧野 直子**

 **四半世紀前を振り返る**

「だれもが生き生き暮らせるまちを 作ろう みんなで力を合わせ 子どもも大人も 家庭を越えて 育ち合い 分かち合い 助け合い」この歌を作ったのは1996年の5月でした。そして、その年の8月の箕面市議選ではこの歌を流しながら選挙活動をしました。「こういうまちを作りたい！」と訴えて市内を回りました。あれから25年が経ちました。

 **地球温暖化はなぜ止まらない？**

そして箕面市議会に送り込んでいただいた翌年1997年、地球温暖化防止京都会議(COP3)が開催され、そこで京都議定書が交わされました。この会議では初めて削減目標が決まりました。それは温室効果ガスの排出量を1990年の水準に戻すというものでした。しかし、先進国と開発途上国の立場の相違など、足並みが揃わず、その後2015年にフランスのパリで開催されたCOP21ではパリ協定が採択されましたが、またしても各国が一丸となって取り組むことができず、ついには気候変動の現象が様々な形で表れ始めました。水没する島そして災害が多発するという恐れていた事態が現れてきています。

私も「ゴミ問題」や「環境政策」について市民活動を土台にして議会で訴えてきましたけれど、それによってどれだけのことができたか、忸怩たる思いです。

 **コロナウイルスの警告**

そうこうしているうちに新型コロナウイルスが世界にまん延し始めました。そして各国でロックダウンやまん延防止対策がとられ、人間の経済活動を大きく制限せざるを得なくなりました。そして皮肉なことに、空気がきれいになり、鳥の鳴き声がこの箕面のまちでも以前よりよく聴こえるようになりました。生態系に影響を与えていることは明らかです。

「気がついてからでは遅い」と言われてきた地球温暖化防止の取り組みは外からの圧力によって変えざるを得ないところに追い込まれたと言えるのではないのでしょうか？

 **一番影響をうけるのは誰？**

日本が高度経済成長期には「一億総中流」と言われていました。しかし、その後経済格差が大きくなり、今は非正規雇用の方が多くなっています。

一番最初に雇止めになるのはこのような非正規の方々です。今や貯蓄も底をつき、その日暮らしの方がどんどん増えています。特に若い世代の方ほど厳しい環境に置かれています。年功序列の時代に社会に出て、そして年金を保障されている高度経済成長期にいた団塊の世代が後期高齢者になるころ、社会を支える世代が少子高齢化の中で苦勞するのは目に見えています。

 **家庭を越えてつながり合おう！**

かつての日本を支えた大家族制度にかわり、戦後の高度経済成長期に入って核家族化が一気に進みました。大家族の中の家父長制度のもとでは多くの女性がしいたげられていた現実がありますが、核家族の家庭では「こんにちは赤ちゃん」の歌にあるように、女性の地位向上も一見すすみました。現在のよう経済格差の大きな中で、女性のパート労働や派遣社員にそのしわ寄せがきています。とくにシングルマザーのように子育て中の女性にとって厳しい環境となっています。また、コロナ離婚やコロナうつが拡がり、子どもたちにもその影響が出始めているそうです。

ソーシャルディスタンスが叫ばれる昨今ですが、地域の様々なつながりを今こそ大事にしたいものです。これからの社会に「結みのお」は必要な存在ではないのでしょうか？

「だれもが生き生き暮らせるまちを！」の歌にあるように、子どもも大人も女性も男性も家庭を越えた信頼関係を育てていきましょう！



「結みのお」の夏休み 8月16日(月)～29日(日)